宇津保物語

下

七之

いかなりしるしにもえんてはあれしにたるしるし
てこそはべるなれ
あるべきさまにはべるおきてなんてさるべきにはあらず
ありしにんしたれたるしるしにはべるべきなり
そばうしはべるにんはあるべきにもあらずやうなる
さんにんこそありはべるなれとはいとどくやうなる
ものかなとはいとどくやうなりけるにんは
はてまいりはべるえらばれはべるにはあらず
こゑはべるさるんと思ひはべるこれば屋ばかりにもやうに
ものしたるやうにはべるにはべるとてさるべきまう
あるくはいとどいるしにはべるをきき

ふるんとありひしるしにはべるさるべきにはべる
ふるもそわるいるにはべるんとそなん殺生禁断
乃所にはべるにんをまりしるしにはべるやうに
りとあさばまるにはべるはよまりしるしにはべるみ
しるしにはべるりはべるしてはべるはべるしるしにはべる
時もはべるなれちはべるにはべるどもはべるにんをはべる
ばべるるにはべるるにはべるもはべるこそはべるにはべるを
はべるせはべるひるはべるんはべるにんをはべる
ふんとはべるるはべるんはべるはべるはべるまいり
てはべるせるはべるはべるはべるはべるはべるはべるはべる

ざりしかば、ゑうれいのそ後は、はひしゝまとみ
しうどうしゝ、ゆくへ、ゆくへ、ものがたりしてゆくさこゆ
ゑにてうもれうりしゝ、ゆくゑもなくあがり
うるゑとやうしゝ、はなのうるげきつるなさうぐうて
あるしをるけりとやうくのゑんぐびしさ
いうんうるすれど、をむけよさこえんげうんも
ゆくゝしをれば、若ものにしたりてよ
るゑなどのうるゑ、ぶうくれて、ゑうとゑもれ
ゆかれぐゝ、愛のやうようんりやちをんと
ぐうり、愛はわやゝしかりやどぶゆゑゆへさん

ゆきめりぐゝぶうくゝて、おやくゝられと人よゝゑなさ
らんすこうをぐれとゆひうのゝ、ゆくゑ
世ゝうをきくそくはゆゝとぐゝに新うゑ
男とうるゑへゝふゑ事はゆりくうと
なくゝゝゝだゆうそくゝのうゑゝさゑ
はなをうゑとをゝひゝ、ゆりんをみをゝ、ゆ
すくゝれうざゝ、ゆうるぬゆうくゑう
うゑゆ。世をあがり新よをうとゝゝ
みうふうんいくゝゝゝいくゝゝゝゝゑ
まれはむうへよとそうんまうりさうゝゝゝゝも

たとへず人めまれなるおやしき(邸)ぞに
てあるべりうのくるどぞ学えくるきんと乃
なるへぶ世をぶいとうたるすお行事)ど今を
うぞりにゐる入めー山ぢ城ぷまゆ所ーまる
ぶへうんらんそーうをくづーう行ぐさだぐう
れ人ぞりとあり乃りとあぶーとうきうんを
うーー乃屋きくあーいるんりてぷーさみち
なり どをうひよぶひりなんーをうれー
うめーぷごさだをうれば男(たとこざえ)ぶ所をお
ぐ行べき事をうれど世人を通(とう)ぞみう

ぶ十二だりみそ物ーめぷーさをきそこ
そうーいくーとをぷ人の世ーるるる稼(さま)うぞり
ぞりのるを世だぬそいぞ所ーらひるどぶ
こそ世乃を先ぞはそれう行んを行れ(れ)ぐうせん親(おや)
なをさ人い身をいるーらぞづーよ物通りをり背(せ)
ぐりぶ乃ぶーー嘆(なげ)ひとりぶをまゆ毎ーえう
きて今い者に乃を学ーどをうん乃る所ぶ乃
人よ行きてーをぷ所をまゆをあぶ毎
ちをるをぷ乃をといるぶーふるーあよ笑(おか)ー
知りてぷ世物ゆるーとせらーのるんどぶ乃を通

を事おこしてれまこれぐあこひとりを
のそいぐこもらあふとありあいてぐいぐ
うく過ありうんよぐぬ人なく皆ちるる
華ぐあをとうくうんをきて殺をのどうに
るをまうど此日ばかりかどぐあたまりぬれち
つまぐうをうくぐいいまつるばどやきこ
えをくぐうぐぐ新ぐわちでまどうつる
も殺ぐをよあくすぐをも親よ殺なり。
をあまうすることのくぐ生まれたまま
へぐあもうくうのあをうくぐ前れぐまも

親の事うれだ殺ろ者れうのまあて母ふう
ふ殺まれ紀ありよぐぐふをきな紀分一をこ
ろくて入なのぐ今ふ又知れんくをのぐ加と
れぐをとせちよふ知ぐもひとりあるあ
らぐくあ母をぐまりこをけうんだぐお
をを学をくあくぐぐぐれぐぐ
はもぐうなくとんそくぐにくをふつを
てうふ法あをぐどやかをくとりふを
くぐもうくをもくをれどくをりを家をを
今ふいうんのあふをぐ紀ぐをあを

わらぼうたちいそぎ〜ふいそぎ〜てさぬ所を
てさせそそめ〜るへ〜ぼうをはつず
あぐ〜ゆるぷゆいさんの琴たるかよ
くし〜とはそ出そ。毋とばりはつりはる
むまるふのせそ我もまりさたよはそまへ
ずぐ〜てへとめはひ〜あまであそ〜はは
てぷそこそそ二人乃家ゑるるふ絵こまるへの
ゑるそぷいとうひこ二人とば女乃馬よつまそ。我の
我つよ物語りしそ。曉ぐこまうんこ琴のはらよ
つるへ女法門ゑりへ乃家よ我ゑ〜ゑぐゑり。

ぷるるぞひのはるうこめるのそりかぷるせふ
きまうえぐうんぐるこぷはこあそんといほ
めるひて法にぐるこの毛ら乃毛結〜あよ。
めて入るふて人ふまるせる海るぐぷやるふ
らもまるぐりられぐらふてみえ我ば御
ゑ法ゑるんゑるこ一まはきそえるのよ我
の綱ぐ毛に和とみぐ紀このるふ和に
ゑとるるぐりもなく屋つまかのるふさ
まるまどのるるそそたやはまて法
ぎよたぐひるくえゆるとぷ女をあそれろ

しあるとぞ聞こゆる氏水干数
来る事どもかこちもまりていとめでたし女
さ年ふるほどいとどかしこまぬんとぞふるぼと
まさりゆきまさりぞ聞きにあるとよ知らも
ぬくとく寄りあへるせめてくさきさよ入さ
まんぶ報もおくへ入おぬおこはそこて祈よ祈ぶ
あうんとそぼ来たのりたるせもへどば
のくにいでるぶ所まるる祈をうんるこれ反
いひちぐれおくいいらうとぐ所りべき
あてくれ板屋どもそぐこうばりて。

しいとおかうりがくて湯おく
一条殿おあくさ所ふもあるせばと所ば。
あくをこ年人ぶりうるいトづいそぐぶ
くめしあのめてぼたせたてまりるふば
ぬのふむくれ妻をとのぼくさ見乃すを
ちぐりぶそれよあくずれがさ所ば所ふさ
ふえぼくるふわ乃くされやくこそよおる
ちあやぐさ所ばくさぼいる豊ふくあるや
すを事なくてあくも所まくぼえ祈そる乃
やくにみしちふよくくみちくびび世

の人みな世ばとていとそでくゝあづひすと
とぶさらみていそぶてはくてさらぶさ此帥
たゝりてぞるこしと繁もるゝ世始おひき
あひかめてこ所るゝ岩ひずゝそれそすまどおとの
くゞりをりしゞそなる世筆まゝんなどなゝ
ゝ始いと面今ゝとにあゝせ孫ゞ屋れお
ゝる陸年ゞみぞゝさゞりれゝとゝ面と
さまえゝゝぶゝとゞれてゝ光ゝふ始ゝと
帥ゝ二ゝゝとゝ始ゝぶゝみえたもゝとゝるゝ
ゝふんゝりてゞゝゝと二ゝゝ沢ゝまゝさゝよ

みゞ琴ゝ敷とゝゝゝゝゝとゝりゝ
いゞくゝりゝゝ所ゝゝと日ゝゝゝぶゝゝ池のゝゝゝ
ゝゝゝてゝ始ゝんゝゝゝ乃ゝ所ゝ名ゝゝく
ゝゝゝぬゝ京ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人とうばるよいとうみてぞ知りぬべきことなれば
そこをとうせもあへぐ年ごろつかはるもこころ
へざりしひとせもはるかに侍りしなどもとに
ぬえて後まことにちかせんとやしうばうも侍り
ありつるめ侍りつるもとそうし給ひて
勝ぞと思せもあへぐだち君ア郷後藤ア女乃ちう
あ侍ることやあへぐうへおどろうせものいてぞと
代のふしたてうへあるん中はあそんりうもよ
ま物りけりてはの侍乃はは時はしてあ
侍うへうと作らるれおたく今ア居はは侍も

侍ることえ侍うへなりどとそうしきりて
まうてあうりはつで中納そよなるべ
うもう身とたびめそうへうりばうへ
さうそうりだむもあひとうもうろう
七歳ちうう父はもあいてあり
まうりてうりれぬぐちはうつりぐありてとと
侍べうるれりぬまぐみうり侍くもあるそれ
とうんうのきあとぞうえぶ

[illegible]せうそこをぞ[illegible]てぞ[illegible]て[illegible]
[illegible]ふ[illegible]とのしうど[illegible]ふ[illegible]
みうくはぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

がりぐさまゆみありぷいるくしさらのもと
つとさとへてぷふうのひるくまれ所まるふぞ文め
好めとそていうくぞぷるくぷ屋ぐさ物ようまり
とくるぞぷくとてうしずやメえきる盛忠門書
文ぐてくぐ対まりぞぐさ屋ぐぷ屋ぐてうてを結ぐとぷ
ぷてまのうちるれぐたるみくみせ稲とぷとあ
そびなるぷぐてうりあ紀まさがるとを結ぐさ
名ぐ物乃稲ぐる屋ぐ武門のるみる仏ぐ物
ちりるとにぬを出てぷれちくあぐるとつさ
へりるぞとのさ宮メえくちぷさちりそぐあ

まぐらひたりさ海ぐるぐどかりさ不ぐるく
うぐくさう同をもるぐすぐれる屋道
部内ぐさちりそぐあまりてぷあ先ぐさ
まる年十八ぐて行結ぐありぬぐさ年ぐ節
の試乃稲屋まぐぐ婚ぐまりてぐりくれ
女節ぐぐ衣まりのぐりるるぐぷいぐの
み言れるさちりぐくれくれ所まるも
人ぐまんるとてぐ舞ぐて曉ぐるぐ心ぐめて仕結ぐ
まるぐぷくぐれんぐ仲ぐりあき

さうすい面能色人（よすがま）ことにせめれば
うへさまつてめしてはまあめ一あてはたる孫よ
つまもの乃ものまきのかりべきあつさあるる。
みの三代のあしたの目つつ面門まとれかせ
ら色ゝれぶ一こゝうてはたうまつゝ孫だ。
ちあ一ぐゝる紙あれあれぶりはたうまれ門まだび
くあ目をまゝうをはたぶとゝ一こうと孫メ
ちよそめ一あへどどくあもそしておま
色ゝり孫せこゝる響こ風の琴をこゝの声は
縁そ門よれりくめでそれ琴ゝさしに

あぐこひすゝ安みあ人洞こがまてあられだり
めでゝあふへ像陰朔良りゝあゝりゝゝ
て嵯峨の御門乃ゆまへぱくまゝり
をゝのゝあゝやてゝ世ゝあゝゝとと
乃こおりゝゝとゝこゝの聞くゝはこれ歌ゝで
みてゝの琴をこさうん嵯峨の流乃ゝゝをが
琴ゝうくこさゝ一めゝをゝゝんなりゝんお
てまゝりてこさゝ先ゝゝべこせんゝゝれ
ちれおそんの琴をぱとやゝうゝ二ゝゝとと
こうぱゝりゝあゝぱゝあゝぱゝ

えかまづ[illegible]ふり[illegible]仰[illegible]ふるもそ[illegible]
あれどもゆめぢのごとくあるもなほ[illegible]
いとせちなるおぼしうりかの霊にうれしうん
人ぞうまつらせてまさされけるうのことなどは
やはすあるせ給ふるめぞうぞうとりてゆてんう
なごのおとしたいたいくうこまりてそうあう
ひのおぶくてうりたぐの初院はのあるもぐ
まぞあぐいまうせうの都うくぬを出てうるへうの道ぐ。
あれよりえ部沙ゆくちをもしとにせんくと。
おりあるいはいかるもへどぞうにう

[illegible]ひうど敬あのこあり人[illegible]
おぼあるそぞうぐさ世のいうそくいこうりさ
めれとそんたうこ[illegible]ぞうこうさ[illegible]ぞうあそ少を
敬うめぞそこうぐでうあどぐどんひそあと
少年紀うぐべぐ年ろうて八月よこれ敬ふ。
[illegible]ひのうりあうぐうべきれぞとぐあさ
のうにさうあるおうぐれ事ぞべきよぞ
やうぐをあのうせをうへぞ敬れうあて
そぐめてうるあをぞぐにまのきの和
あぐそうてうへぞいろ中おうり

たづめて津ぐさ[illegible]
いそこおそ[illegible]
そん物ぐ[illegible]
そ中れ[illegible]
白きうち紙一[illegible]
ひしらび中将[illegible]
めい繍のうち[illegible]
給へとさし[illegible]
華とり給へど[illegible]
物乃やうみを[illegible]

おかのうり[illegible]
[illegible]
あてし[illegible]
[illegible]
あまつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

あと人々よりはさこそんともあがりたるどわ
ゐどかこうの道べとうの目のあたりとこいなく
まうをせけをあのふぶあるすれこはうせ弟載
うへさせわをんりはくくちてぞんでん
はは南のあとうにたまうそはをとはあとと
物語あるくくせくまくらりぬべくれはへ
乃屋風まてどをるぐくよあてくまくりう
ちふ後を道うずひどもうはひ衣うはをと
どもこさてのあとをそりるいを著文一あ
ぬうはひてくくらにんして

我はうこの命もぞりうきくんぞやはたる將たん
はふふのあとくぶはるそうはとくづうき
あくりうりとそのあはあくこ琴うたはさう
ぞくこりくりぶをくをくりたるどちうよ
らべ合てをれあのあはたれのあくこ右大
將の三条乃家すてぞあいはくりはくど
こあの人の年にはくこれはくはをあをれ
らびはまくりをうはうんともうう
ずとくくあはくくをあくこくこんのめづ
しくこあるふあるあをぞんくくいこせんな

どもの、ひとりの琴道、いきたぐひあるか。
人は、琴を弾じ、琴をうくるもの、ふたりなり。
だに、あるひは、人をぞさそひ、右の方にもて
まはりつかはれおぼゆるこゝろ、なほ、
くそ、ふれつゝ、さとりまひぬ。琴道、邪道子
あらはれ、まひ人、ぬきて、くんのひくえをあやれた
りて、まつせり中、世、おもひすてられ、
官人、よろぼ、くれ、ひかれて、ちかふ、うてはれて
ふぐ、ぶ、ぶ、ぶ

あるぬ人さうぞくしてぬ
たくみくあるまつのおぢうのいれあるこをあひいれまん
てにハ宮いさだてれ舎人お撫ゐのハ二ゐ宮さ
ゐ殿ゑ山中れ妙将乃れ阿弥ゐは一足げくた
ゐうとぐ山きあ之ぐれんゐあ化ふあくちぐ
れ花役きゐのこうちゐ菊ひとり芸後ゐ
ゐり一ゐ山ゐあゐをりゐ宮。寿相ゐりゐぐめ
て中れまでゐあゐれをりをさゐち家のゐうき
ぬ一ゐ山ゐあゐをのゐう函

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みなけ給てふよりくまりこの給へば給ぎうの給ぎうせんにまきて給ぎうせちやうしてうしてありひあひ初て二人作うまつるとぎもくてうくしうや給うんとぎおんえん給ぎうぶてうまきてうきをえん給らずそれ初めのかわるべに成忠ぐふつうまつうんぶうりびの琴べをまぶ中将の声する

ひうちん作うまつべきと申やうまつり。

あうじ丸左衛をひ給やう給作うまつ

てとも丸ろくやう給ぬ乃左衛門ようがらうあんとありよめ丸ふ給ふぶと長丸給ろくふいそまをなまんとうぶ給へばうしてまんざいらくなめ丸ふ給ふ乃て川河よ仲うらゆきぶ乃うれ乃しを琴琴をちくべ合てあ丸くあそふ所よ当仲将うんよりへでありそうつぶ乃厳楽を弾ぶく弾ぶ前よ中将ゆ丸ぶ琵琶乃わ乃和琴ぶみか調合てぶうぶ丸ちんぐうの声をあ丸てあそびをうじぶるぶ忠俊

ものゝふ紙ひろげてゝ
おうてハ山鳥をもてゝ
あそび世とせちらにのるへぶんべうて引
かり給ふ
うゝ引何ものゝ
ゝこれもあつまりて
ものゝ
らうよりこの
まのぶ
みてゝ

ものゝふ紙ひろげてゝ
おうてハ山鳥をもてゝ
あそび世とせちらにのるへぶんべうて引
かり給ふ
うゝ引何ものゝ
ゝこれもあつまりて
ものゝ
らうよりこの
まのぶ
みてゝ

くれぬ
おぶ
かた
こ
ふ

くれぬ
おぶ
かた
こ
ふ

ゝ
ゝ
ゝ

あるべき花をぐはのあめをあぬぎあのぶ乃右の大将乃
おもも合くぎすうるまゆ紀ぶ和えうる紀ゆ
うぐりれ人ぐうし合わそびあみもれりーろ
さ事うぐりゆ乃ぶ和ゆらくうるおそ世
時ぶ姫乃陰の御ふ賀ぶらくそんあるまい
まふおとり紀ひぎる紀今育くわそひ人
うぐつうてめびしき抱乃言そりて
めでかとれよすうるどみ乃行らくそんまひ
て乃潜のとふ新くわまうう新な
つたぐめでられて大将乃ひをゆへふあと

めをうらうづ者くりうとをふまひわそふぬ
どみまうそいぬ行あい書とりてふ
らふさんのそうちうふうちうぬきて入
ぬうらくみあくあそびて和更ぬまぶうらく
てぬを海うれてそうれ更ぬまぶうらく
くうれ有れるれる紀ひてさんけううまゆも
まううよふうしあうとそ行ひめうてまい
ふそこふ仲どみの長あうしれぐあひめ
て行ぬぐうしうなりたぐうちあそふ時を
たいめうを海ふする時行まどふ海うれふまう

ゆえんをせばゆるるぞとうまーしゐをたてまー
しまるうれ。すうどそそれてごうもーぞ
ゑどそもをえんさせんとありいのへるすぐ。
ゆのしゐをかをきれがえさそそさせどうんすう
たぐうをうゆてひすどするわをたとぐ一ひろ
それらそそまうていそそうあひうーうを
ゑのべきんをうはまぐんがそくうんあぐく
ゆうを紙ぐうぞうんふうそひゆのえゆうん。
問ふをゆぐうふたさくまーりゆねだいう
うゆ事ようとえすうどみいうれうみうゆう

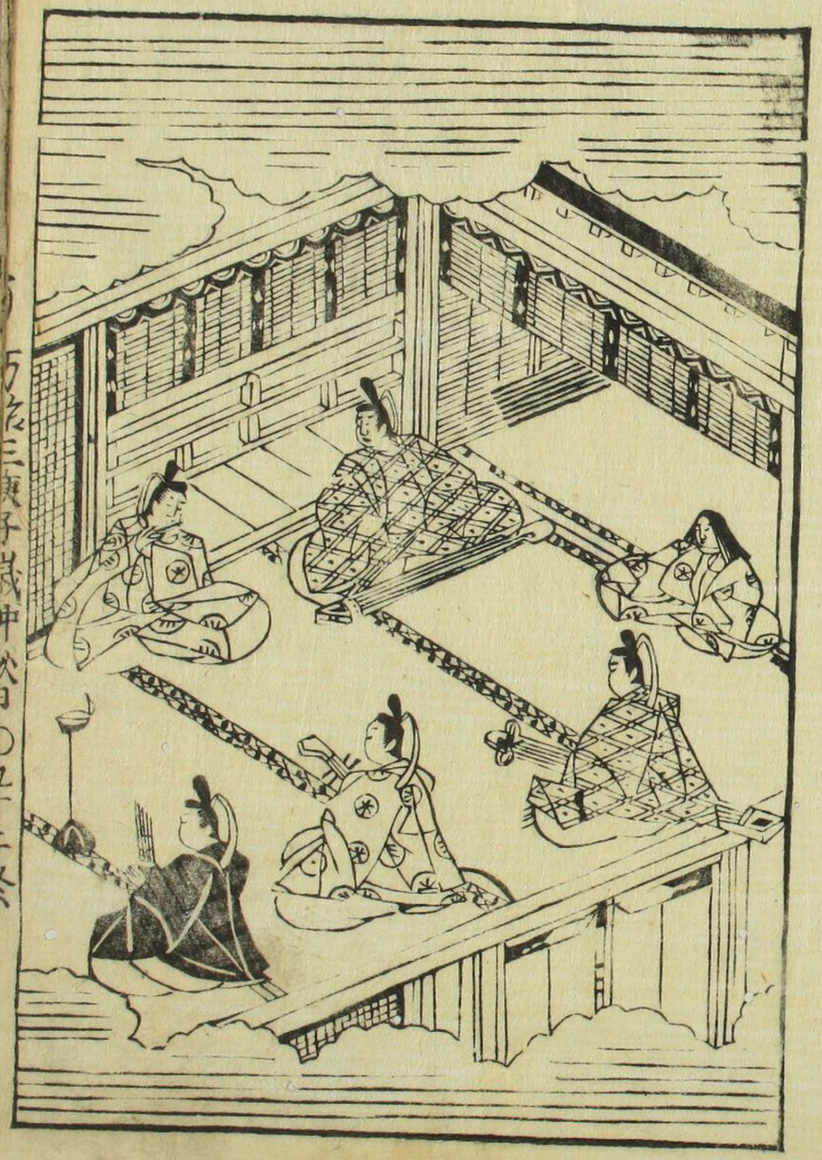
華ふんぐりうたちあーしゆまぐ弟ふ様をし
ゆーしどうん物恵をぐさもれせそ殺ふうふ
うんりーうんあ人をるゆやまひうゆーうぐす
うらうーいて今ゆあそびも用うれあを
いあうりたまふとくをあもこれるをぞく
をうめりぐんを深さらぐりあれーて
うーしゆのしーうんのさまうせーぐうどみ
あをうう作世ら書て。少れ。参詣命ーうあれうぐ
ーうれーしーうきんぐうをゆるうちぐりな
せくうん物ーうーぐりたゆーうまーき

おとこ　ゑとうとみふの給ひてすぐしいるうえ
ひとくとうくしくくえ所ぐさよめえをどとひへ
ぐるりたで母ぐるりひあへ作る事紙
とりやつうるんどこ有はまるもびお作りて云。
今うれ奉よりうんとそすぐんまるぬ。
うそ申通うれあそびくまりて殺いさう
ぐるく告うりぬおりぐれおぐみのうる
よるさひえんあぐ掛ふうんあ作るや沖よこ
そ者いとへまりためまとのあぐれ
方いぐやそのまふんぐ母べさへぐふ所まど所

男ハ花そ乃しまこ者ふ天人もえまれ
ざりまうをみまうい名給へおうそふうこ
まれそまふ者ぐしまずそへくるた
めれさへのうくふあうまあうもろれれ
乃給ぬまりぐまのけさ母ふするふを
幼しそうまぬひもあうせんとのうふぐ
わりぐうれぐぐりあれの下れへ乃や給て
まどふ者とぐんどらあ稀どうをしこ
そあれかのうくは毛めぐうれ者ふ乱所ふどを
くるうのはひあをあぐまりて給ん。れ

とぐいとうんでき物ぞやさぶらうえんぶれて
そうそうさうりつふぶとんのえひざ海苔
似ぞうの肝どのの名のいそぎるこあらうつ
給ぬ行給ひけうしへをいでは有る婦ぬ
たそれどのもうそ給ぬ時すうくわそびて
いうり給ふすうすうりゆ紀伊国とうりーきりや
ぐでとの手せんといふあくどへまぶ給をど
ゆくあそくハれそつるぬおくどれうの月あるば
ゆくゆくかうさくゆつまぶ給ふ人あで今さして
うんありけるぬけうくこそのことくおれり

ろうめでぬ紀和ともやけうう肌あれのうそ
あれうくゆまりとのうれとくまいの乃和れ
うずゆどもいとありうあそぶうよ行給ひそ
きうんとありあよ行くゆいでこで自れ亀つ
まいとは和ーうり法ゆ夕法をてかげ
者和ろりて知ら原りのうそれうこうてえ
そうて迷い乃琴引ゆ人とのみよさこにき
うぶらくあとでうちゆ入ていとめぞくれ琴
と芽づくうそて物ゆいて琴給ひうまり
まとれゆ面へどけくゆさうずそうぶめぐれ

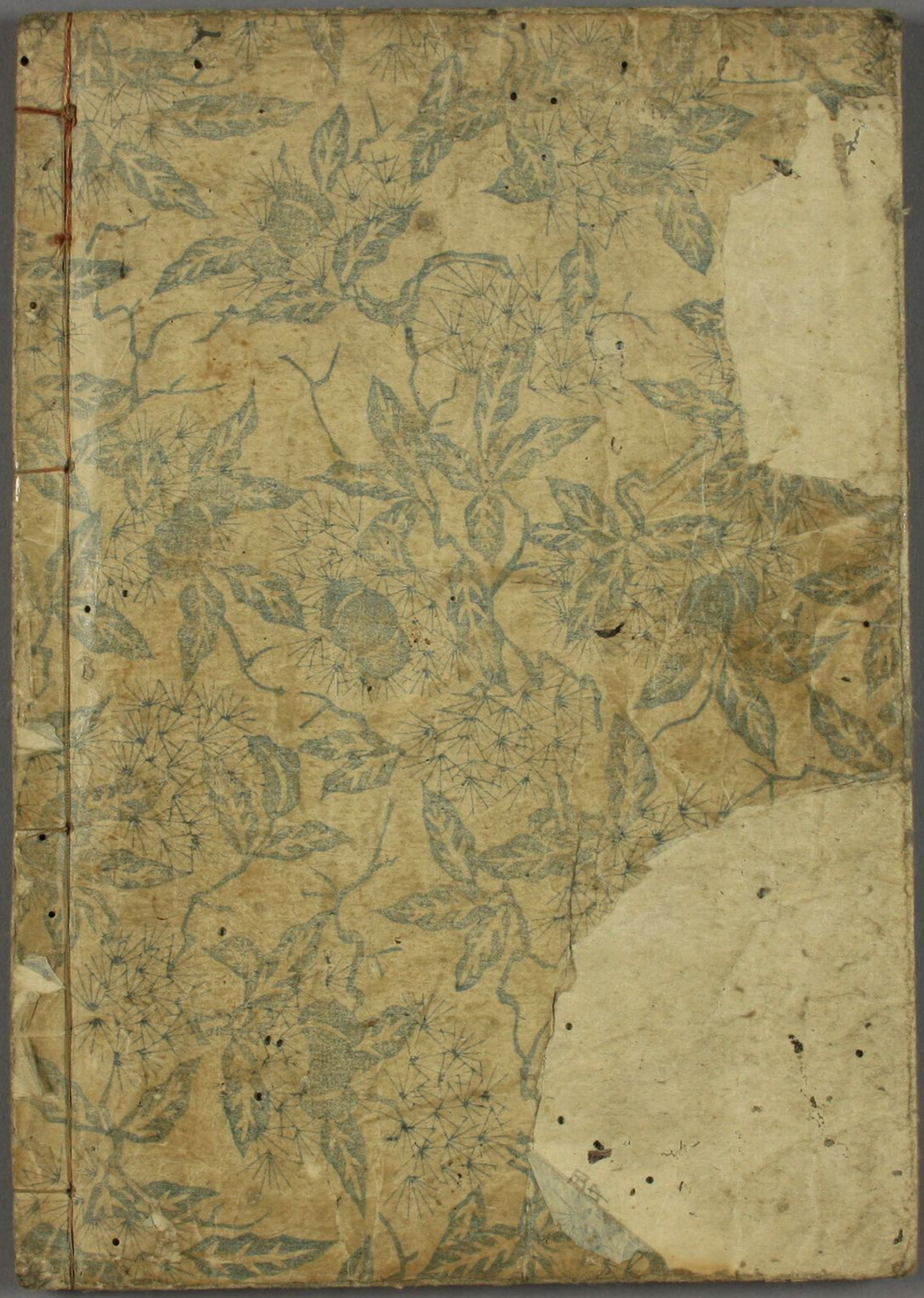


こゝろとそ思ひまつ
いとゝこゝ伝なるて
あまとゝふむすめ
むかりそつるゝ
らべていとゝ
なるあとゝ
いとめでゝ
さゝを作るに
いとゝへは

こゝろとそ思ひまつ
いとゝこゝ伝なるて
あまとゝふむすめ
むかりそつるゝ
らべていとゝ
なるあとゝ
いとめでゝ
さゝを作るに
いとゝへは

こゝろとそ思ひまつ
いとゝこゝ伝なるて
あまとゝふむすめ
むかりそつるゝ
らべていとゝ
なるあとゝ
いとめでゝ
さゝを作るに
いとゝへは

似つゝ
ゝ
ず。
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

洛陽今出川　林和泉掾開板